

幕下は群雄割拠、大混戦か

幕下は、今場所これといった本命の力士がいなく、誰が優勝するか分からない展開になりそう。

その中でも活躍が期待されるのが、やはりどの段でも勢いのある春日根勢の玉乱と音柱。今場所新十両に昇進した大石丸に続けと気合が入る。

その期待通り、ともに勝って初日白星をあげて好発進した。玉乱は先場所逆馬山に敗れて優勝はならなかったが実力は文句のないところ。今場所こそはと、春日根親方の鼻息も一層荒くなってきそう。



音柱○(寄り切り) ●千曲海

上位陣では磯ノ海勢と桐壺勢の面々が目を引く番付となっている。人数では磯ノ海部屋が7人、桐壺系が10人と丁度全体の半数を占める割合だ。

その中でまだ十両の経験がないのが虎麒麟と磯蛸。磯蛸は初日敗れてしまったが、虎麒麟は白星スタート。ライバルだった麒麟繫がりの鹿麒麟が一足早く関取に上がって次は俺もと思っていることだろう。早く番付で追いつきたいところだ。

数では桐壺勢、磯ノ海勢に負けるが錦風勢も元氣だ。逆本は敗れたものの幕下2場所目の虹ヶ谷は同じく2場所目の大松戸部屋期待の松田山を押し倒して、新幕下で般若、磐弱



虹ヶ谷○(押し倒し) ●松田山



磐若○(押し倒し) ●徳富士

との愛称で人気の磐若も未完の大器、徳ノ富士を押し倒して幕下初白星。

紙相撲70周年及び160回記念場所として136回来所、久々の多と山口、久々の付け出しとなった松ヶ神部屋の松錦と秋田部屋の達子波。初日は両者の対戦となり、達子波が松錦を押し倒して白星発進とした。



松錦●(押し倒し) ○達子波

今場所の幕下下位にはこの付出しの2人を含め新たに幕下となった磐若、巨鵬、亀風、千曲海、難波山、風神丸と活躍が期待されるうな力士がひしめいている。なかでも注目は秋田部屋から念願の昇進を果たした千曲海と難波山。秋田親方も今場所は大いに気合と力

しかし、初日はともに白星とはならず、いきなり幕下の洗礼を受けた格好となった。勝ち越すためには連敗は避けたいところ。二日目には勝って何とか勝二越しに繋げてほしいところである。



徳ノ虎○(寄り切り) ●難波山

三段目、序の口

三段目は同門対決を制した里の若、部屋も優勝候補の紅の華、先場所は序二段優勝を果たした逆岩、錦風親方を絶賛の大勢だが初日を白星で飾った。

同門で三段目の東西を占める勝間田部屋の里の若と分家の山里部屋



片貝●(寄り切り) ○里の若

若が寄り切って白星。山里部屋初の幕下力士誕生に意欲満々だ。



火百●(寄り切り) ○大勢

序二段は先場所序の口優勝した九十九部屋の森倉、森倉に敗れて序の口優勝は逃したものの実力ナンバーワンとの呼び声高い伊勢ノ里、実力者大熊部屋の笹熊らが初日白星スタートを果たした。



森倉○(押し倒し) ●荒湊



伊勢里○(押し倒し) ●飛葉

また、佐戸若部屋の平戸波、惜しくも幕下付出しとはならなかったが序二段付出しで初土俵を踏んだ荒笠部屋の手垂は親子対決で大松戸部屋の松岩を下して初日を白星で飾った。

序の口では先場所の森倉の快進撃に続けとばかり九十九部屋から砂部屋の二代目羽黒海を寄り切った。

また先場所の飛葉と武原に続きウズベキスタン出身の佐丸(サスマルカンド出身)と田志(タシケント出身)も初日を白星で飾った。



羽黒海●(上手投げ) ○安斎

古今東西

紙相撲豆知識 63 横綱初金星配給

横綱千代鈴が四日目鹿富士の粘る相撲に引き落して敗れ、在位3場所目にして初めての金星を配給した。

新横綱の場所は若ノ嶋、春ノ翔に負け2敗のみ、先場所は全勝。横綱昇進以来26日目での初金星配給となった。

これは歴代横綱の中でも創成期の富士昇に次ぐ堂々の歴代2位。しかもそれまでが23勝2敗という驚異の勝率だ。(ちなみに3位タイの綱錦は16勝8敗と三役陣には負けている)

歴代横綱の初金星配給日

① 富士昇	② 千代鈴	③ 田子浦	④ 照三津知	⑤ 富士登	⑥ 岩湊	⑦ 若ノ嶋	⑧ 美空富士	⑨ 春ノ翔
3日目	26日目	2日目	1日目	1日目	1日目	1日目	3日目	3日目
(太刀藏)	(鹿富士)	(宝永山)	(明武川)	(駒雄山)	(松島湊)	(隅田川)	(白閃光)	(烏帽子岳)

() 内は初金星相手